

ロシア 東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2002年(平成14年)10月25日 No.1242

目次

議会選挙後のウクライナの政治・経済情勢	服部倫卓 1
統計速報	9
CIS・中東欧諸国の最新GNP / 9	
ロシア東欧貿易会関連の行事予定	10
CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	10

議会選挙後のウクライナの政治・経済情勢

はじめに

筆者が前回「ウクライナ、10年目の迷走？」(本誌2001年6月25日号、No.1196)と題するレポートを書いたから、1年あまりが過ぎた。この間、ウクライナにおいては、当初は外需頼みだった経済成長が内需主導型に転換し、予想外に良好な経済パフォーマンスを示している。他方、内政に目を転じると、2002年3月に議会選挙が実施され、これをひとつの契機として現在クチマ政権と野党勢力との対立関係は正念場を迎えている。

本稿では、注目されるポイントをいくつか取り上げつつ、最新のウクライナの政治・経済情勢についてまとめてみたい。なお、付属資料として、ウクライナの貿易と国際収支の動向に関するデータをまとめて紹介するので、あわせてご参照いただきたい。

ウクライナ経済の成長要因

著名なエコノミストのオスルド氏は、“Why Has Ukraine Returned to Economic Growth”というペーパーのなかで、昨今のウクライナの経済成長に関する自説を展開している。これによれば、最近までウクライナ経済は旧ソ連で最も病んだものと思われ、どうしようもなく腐敗し停滞した国だというのが専門家の一致した評価であった。その国が2000年から突然目覚ましい成長を遂げるようになったのはひとえに、それまでの生ぬるい漸進主義を捨て、ユシチェンコ首相が急進的改革を断行したからだったというのが、オスルド氏の見解である(<http://www.ier.kiev.ua>)。筆者は、ウクライナ経済は抜本的な改革を必要としているし、実際